

青少年問題協議会

「家庭部会・地域部会・学校部会」報告書を作成しました

5月28日に山陽小野田市青少年問題協議会（会長：白井市長）を開催し、2年間にわたり青少年問題について検討してきた結果をまとめた「家庭部会・地域部会・学校部会」報告書を作成しました。

【問い合わせ先：社会教育課 ☎ 82-1205】

「家庭部会・地域部会・学校部会」報告書

家庭部会

【現状と課題】

家族を取り巻く環境は、核家族化、都市化の進展により、家庭における親と子のふれあいや子どもに基本的な生活習慣や地域における規範意識が低下していることなどが指摘されており、家庭の教育力の向上が求められています。

【課題解決のための方策】

○「家庭の日」の活用

家族団らんを目的とする「家庭の日」を周知するため、スローガンの作成や親と子が交流できる行事の充実を図る。

○体験活動の充実

ボランティア活動や体験活動において他人や異年齢の子どもたちとの交流を通じて、他人を思いやる心や社会におけるマナーを学ぶ機会を充実する。

○個々の家庭への支援の充実

社会や家庭でのルールやマナーを身につけさせるために、家庭教育に関する情報提供など、できるところから地道に活動する。

地域部会

【現状と課題】

核家族化、都市化などによる住民同士の交流の減少から人間関係が希薄化し、それに伴う地域の教育力低下が指摘されていますが、その根底には親の教育力の低下があるのではないかとの考えから、地域全体で親世代の教育環境作りが求められています。

【課題解決のための方策】

○地域の間関係の希薄化の解消

地域交流の時間と場所の確保ということで、自治会のようにある程度強制力のある小さな単位での地域行事を活用して、若い人がもっと参加できる仕組みづくりやP R方法を工夫し、行事参加を促進させ異世代間の交流を活性化させる。

また、人間関係希薄化解消の原点はやはりあいさつであり、大人ひとり一人が率先して地域の子もたちとあいさつを交わすことにより、子どもを

通じてあいさつが自然にできる環境を作ることができ、地域のつながりが強化する。

いずれも地道に声かけを行うことが肝要であり、大人や高齢者が地域に関わっている姿を子どもたちに見せていくことが大切となる。

○地域における親世代の教育力の強化

最近の子どもたちは遊びを知らないといわれている。それはとりもなおさず親が子どもに遊びを教えていないということでもある。

地域において親の学びを支援するためには、「遊びから学ぶ」のスタンスが必要であり、親子で遊ぶプログラムを企画し、親世代に遊びの技術を伝承していくことが、親世代の地域参加を促しあわせて教育力も強化されることになる。

また、地域を担う後継者の育成も必要で、そのために地域の活動に関わりたい人を人材登録し、公民館などで活用するなどサポート体制を整備する必要がある。

学校部会

【現状と課題】

学校を取り巻く環境は、情報化の進展による有害情報の氾濫や、核家族化や都市化等による地域の人間関係の希薄化による学校における親同士のつながりの弱さが指摘されており、家庭や地域と連携して学校教育へ関心を高めることが求められています。

【課題解決のための方策】

○地域や家庭との連携の強化

青少年の健全育成には学校だけでなく地域や家庭との連携が不可欠で、そのために、学校は地域に対して積極的に情報を提供し、学校に対する地域の関心を高め、連携強化を図る。

また、親に学校に対して関心を持ち、行事などに参加してもらうために、参加できる場を工夫する。

○携帯電話に関する周知

子どもたちが携帯電話による犯罪や事件に巻き込まれないために、持たせないことを前提に、その利便性と危険性について子どもたちや保護者に対し周知を図る。